

# 価値ある10日間

団長(八百津中学校長) 榎間 誠



## 1. はじめに

この海外派遣に向けて行われた数回の派遣説明会、事前研修会4日間、そして結団式。会を重ねるごとに、子どもたちの中にも引率する私たちの中にも、いよいよ行くのだという気持ちが膨らんできたのは言うまでもない。私は、選ばれた20名の参加生徒に次のような話をしてきた。

「15歳という若い君たちが、世界のリーダー的役割を果たしているアメリカの首都ワシントンDCと経済の中心であるニューヨークを見聞してくる意義は本当に大きい。この研修が終わったときに、グローバルな考え方をもてるようになること。そして、今生きている日本という国の在り方や八百津町という生まれ育った町をしっかりと見つめられること。そんな力を養ってほしい。そのためにも、安全面・健康面にも留意しながら生活すること。物見遊山の旅ではなく、町の代表としての自覚をもって、時間を守ることや話を聞くことなど学校生活の延長と考えてほしい。」そのことが本研修の大きなねらいであると考えて声掛け等をしてきた。また、私自身も狭い世界観から一歩でも脱却し、生徒たちの未来に示唆を与えられる人になることを決意した。

研修会を重ねるたびに、そしてこの研修10日間が、「派遣希望者の集合体」から「研修の仲間」へと変容し、一人一人の関係も少しずつ太くなっていったと思う。このような機会を与えてくださった吉田茂様に、まずもって感謝の気持ちを心より申し上げたい。研修を貴重な体験ということだけに留まらずに、さらに興味をもって深く学び、次へと活かすことで感謝の思いを体現していきたいものである。



## 2. アメリカ入国 不思議な感覚



8月10日(水)午後4時35分。中部国際空港を飛び立ったデルタ航空機(DL-630)は、日付変更線を越えてアメリカ東部地区にあるデトロイト空港へ。到着時間は、アメリカ時間の8月10日(水)午後4時5分。日本を出た時間を30分かかのぼった時間である。さらに空路でワシントン空港へ。フライト時間は合計約14時間。「時差」という不思議な感覚。Back To the Futureの感覚? ドラえもんのタイムマシンに乗ってきたわけではないが「得をしたみたいやね。」という声も聞こえてきた。アメリカ入国の手続きは、荷物検査も厳しく英語での質問に戸惑う姿もあったが、全員無事そろそろことができほっと安堵。気圧の関係で耳を押さえる子もいたが、「ついにアメリカに来たのだ。これから始まるんだ。」という期待いっぱいの表情であった。



空港からバスで、ホストファミリーの待つSleep Innへ。アメリカは車両が右側通行で日本とは逆である。運転手さんが右側に座り、高速道路の右側を軽快に走っていく。「鏡の中の世界」に入ったような不思議な感覚を味わっただろう。

ホストファミリーのみなさんとの出会いは、ほの暗くなってきたホテルSleep Innの駐車場。ふわりと浮かぶ色とりどりの風船とWelcome board。そして、Smile、Smile、Smile…。生徒たちは、不安な気持ちを抱きながらも、彼らの温かな心を感じることができたであろうし、旅の疲れも癒されていく時間であったと思う。「今の気持ちを英語ではどのように表現したらいいのだろうか? 通じるのかな。」と言葉に表すのはなかなか勇気のいる行動であっただろうが、積極的に会話を試みている子も多く、良い思い出作りができそうな予感がした。

ホテルの駐車場から空を見上げると、日本の空と同じように月が浮かんでいた。

「天の原 ふりさけ見れば 春日なる 三笠の山に 出でし月かも」百人一首に出てくる阿倍仲麻呂の歌。中国は唐の時代に留学生として中国大陸で月を見上げた仲麻呂の気持ちかも…そう感じた出会いの夜であった。



## 3. 美しく計画的に作られた都市

初めての見学ツアーは、ホームステイ先のファミリーの中で希望された方も一緒にバスでの移動。ファミリーと片言の会話を交わしながら、昨夜よりも徐々に打ち解けている様子。何回も受け入れをされている家庭の元気いっぱいなご子息もいて、楽しい雰囲気がバス内にもあふれていた。最初の見学地は、169mのワシントンモニュメント。その展望階までエレベーターで昇り、360度の眺望を楽しむ。流れるポトマック川と白亜の殿堂は、ヨーロッパの古城の風景にも見え、柔らかくゆったりとした印象を受けた。「すごくきれい!」思わず声に出てしまう女の子たち。笑みも自然とこぼれる。広大な土地をゆったりと贅沢に使うアメリカの首都。建国時に国として最も大切にしたいものをどのように配置するのか…きっと希望にあふれていたに違いない。子